

補綴専門医が矯正治療に望むこと

山崎 長郎

矯正治療は、従来その開始から終了まで矯正歯科医が単独で行うことが多かった。しかしながら欠損歯、矮小歯、根管治療、歯周治療、外科治療、インプラントなどの問題を抱える成人矯正においてはその対応が難しく、正しい診断と治療計画の立案は多岐にわたる各専門分野の知識・技術の集約が必要となる。このため、歯列不正を伴う複雑な補綴治療においては、全ての分野を包括した総合治療計画とそれに基づく治療のための共同作業を避けては通れない。この共同作業により、治療計画のオプションが多くなり、治療効果の高い洗練された治療となり、複雑な治療を成功させ良好な結果を得ることもさほど困難ではなくなる。すなわち矯正治療だけで完了する症例と補綴治療を必要とする症例ではその複雑さにはかなりの差があり、補綴治療で最終的な機能・審美の回復を行おうとする場合は、矯正治療は今までの通念とは逆に、初期治療あるいは経過観察中の治療に組み込むという認識をもたなければならない。いずれにしても、より高度で精緻な修復治療を達成するためには矯正治療とのインターディシプリナリー・マネージメントは必須の要件になる。

山崎 長郎（やまさき まさお）先生
原宿デンタルオフィス 院長
SJCD インターナショナル 会長